

## 令和7年度危機管理対応訓練の実施結果について

### 1 趣旨

震災発生時における、職員の参集や被害状況の把握、応急対応の検討等、発災期から初動期にかけての初動対応訓練を実施し、災害対策本部の動員体制と応急対応力の強化を図る。

### 2 訓練概要

#### (1) 臨時災害対策本部参集訓練

##### ア 実施日（以下の指定日のうち任意の日）

令和7年10月21日(火)、28日(火)、11月6日(木)、13日(木)、20日(木)

##### イ 実施時間

勤務開始時間から参集場所到着まで（最長1時間）

##### ウ 対象者

臨時災害対策本部編成員

##### エ 参加者

539人

##### オ 訓練内容

職員参集システムからの配信に基づき、安否状況及び参集状況を報告の上、自宅から指定された場所まで、周囲の危険箇所等を確認しながら、徒歩で参集した。また、参集後、災害情報システムで被害情報等の入力を行った。

##### カ 訓練参加者の主な意見・感想

- ・ 昼間の参集だったが、街灯が少ない箇所や、足元の段差が見えにくい箇所が多く、携帯ライト等、自身の安全確保の手段を再確認する必要があると感じた。
- ・ 災害時、区民の生活と安全を守る立場として、まず自らが安全に職場に到達することの重要性を改めて実感した。
- ・ 職員参集システムの流れや、自宅から参集完了までの時間の目安など、発災時の動きについてシミュレーションができた。
- ・ 震災時にスマートフォンが使用できなかった場合、参集場所までの道のりや連絡手段等に不安を感じたため、普段から参集場所までの道のりを確認する必要がある。
- ・ 一つの参集ルートだけでなく、複数のルートを想定しておくべきだと思った。

## (2) 災害対策本部初動対応訓練

### ア 実施日時

令和7年10月29日(水) 13時30分から16時30分まで

### イ 参加者

- ・ 副区長(副本部長) 1人
- ・ 災対本部事務局編成員のうち指定する職員 16人
- ・ 災対情報部編成員のうち指定する職員 8人
- ・ コントローラー 7人

### ウ 訓練内容

勤務時間中に震災が発生したことを想定し、災対本部事務局の機動班が、無線機により被害情報等を災対情報部に報告した。報告に基づいて、災対情報部は区内の被害状況等を整理し、併せて、災対本部事務局において必要な応急対策を検討した。

### エ 訓練参加者の主な意見・感想

- ・ 訓練においても、発災時と同様、情報を待つだけでなく、積極的に収集する姿勢を身に付ける必要がある。
- ・ 災対情報部と災対本部事務局間の情報伝達は、情報管理票だけでなく、口頭でのコミュニケーションも必要である。
- ・ 無線機での報告は音声のみとなるため、情報が正確に伝わるよう、端的にはっきり伝える必要がある。
- ・ 災対本部事務局に上げた報告の続報や対応状況の共有など、報告後に入ってくる情報の管理が難しく、情報が錯綜しないようにすることが必要だと感じた。

## (3) 災対各部応急対応訓練

### ア 実施日時

令和7年12月17日(水) 13時30分から16時30分まで

### イ 参加者

- ・ 区長(本部長)、副区長及び教育長(副本部長) 4人
- ・ 災対各部の部長及び部長補佐 24人
- ・ 災対各部の部長が指名した職員 23人
- ・ コントローラー 17人

### ウ 訓練内容

発災後3時間以内の活動を想定し、災対各部が、付与された情報に基づき、文京区職員防災行動マニュアルや文京区事業継続計画等に示された業務を確認しつつ、必要な対応を検討した。また、災害対策本部会議を実施し、災対各部の対応状況等を共有し、発災後24時間の対応方針を整理した。

### エ 訓練参加者の主な意見・感想

- ・ 発災期はさまざまな情報があふれ、全体を把握するのに苦労した。情報の整理や発信をする担当者を普段から決めておき、定期的な訓練を実施することが必要だと感じた。
- ・ 職員同士で、対応が完了した情報と完了していない情報の共有を綿密に行わなければ、重要な情報を見落としてしまうリスクがあると感じた。実際には訓練以上に情報伝達が混乱することも考えられるため、見落としのないよう情報を共有する意識を強くもって対応したい。
- ・ 震度・気温・風速・日没時間等を想像して、被災者及び今後の対応をシミュレーションしたことにより、より鮮明に課題等についても考察できた。
- ・ 自分の災対部だけでなく、他の災対部が何を所管しているのかを把握しておかないと、被害への対応依頼や情報共有等ができないと思った。